

いもう 葦毛通信



2026年 3月23日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町三丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 183

1、2025年度作業報告-2

1) K地点

K地点は2024年度にネザサやコシダの群落を根から除去したところです。根の周りの土に含まれる埋土種子を確認するため、木道沿いに剥ぎ取った根の層を裏返しにして積み上げました。雨に打たれて埋土種子が地表面に流れ落ちることを期待して行った実験です（葦毛通信 173号参照）。

今回の作業では、木道わきに仮置きした根の層を搬出して、南側のヌマガヤを根から除去して実験区を広げました。これまでの実験から、裸地化するとミカワシンジュガヤ等のシンジュガヤの仲間が出現すると予想されます。この実験区から10mほど東では裸地化したところから愛知県絶滅危惧ⅠA類のカガシラが出現しており、この実験区でもカガシラが出現するかもしれません。



K地点西作業前 (2025年6月18日)



K地点西作業中 (2025年12月16日)



K地点西作業後 (2026年1月29日)



K地点西作業後 (2026年1月29日)

2) I 地点北 (ミズゴケ除去実験)

I 地点で北は、昨年度にミズゴケを除去する実験を行いました。1年間観察しても、わずかにイ (イグサ) の仲間が出現しただけで湿生植物はあまり発芽しませんでした (葦毛通信 177 号)。これは、除去したミズゴケの下層に、ミズゴケが変質した泥炭状の堆積物があり、良い湿地だったころの地表面 (土の層) が出ていなかったためと思われます。

そこで、今回はミズゴケを除去する範囲を広げるとともに、泥炭状の堆積物を除去して、良好な湿地だったころの地表面を露出させることにしました。

下写真は作業後の状況です。下右写真の画面中央の水のたまったところが旧水田面で、手前が木道、奥は一段高くなっています。画面右下に水が抜けるように水路を設置しましたが、旧水田面はほぼ水平で水が溜まりやすくなっているようです。今後、どのような植物が出現するのか、観察を続ける予定です。



I 地点北作業後：東から (2026 年 3 月 18 日)

北から (2026 年 3 月 18 日)

3) I 地点北西 (池復元実験)

I 地点北西では 2024 年度の作業で小さな池を再生しました (葦毛通信 No. 169)。2025 年度には再生した池の東側にヌマガヤ等の根の層を除去して新たに池を再生しました。画面手前に水が溜まり、奥がやや高くなっています。画面手前左側には掘り上げた根の層を裏返して重ねてあります。雨に打たせて埋土種子が流れ出るようにして 1 年間観察します。



I 地点北西作業後 (2024 年 4 月 4 日)

環境のわずかな違いから出現する湿生植物に違いが見られると予想しています。

4) 一の沢国有林内

今年も一の沢国有林内は下草刈りを行いました。適度に明るくなり、半日影を好むショウジョウバカマが増えています。今年は3月18日現在で、251輪が開花しています。これから開花する個体もあり、満開は1週間後くらいになると思われます。



一の沢国有林全景（2026年1月29日）

国有林内（西から2026年1月29日）



国有林内ショウジョウバカマ開花状況（西から2026年3月18日）

2. 冬水田んぼの動物

R地点では一部を一年中水がある冬水田んぼとして再生しました。再生直後から植物だけでなく、魚や水生昆虫等様々な生物が出現しました。今年もカワセミが採餌に来ています。2月13日には魚（カワムツの幼魚？）を捕らえているのが観察されました。また、2月27日にアズマヒキガエルが産卵し、3~4卵が産みつけられたようです。3月11日には孵化しオタマジャクシになりましたが、3月14日にはアオサギが魚（カワムツの幼魚？）だけではなく、アズマヒキガエルのオタマジャクシを食べているのが確認されまし

た。これも食物連鎖の自然の成り行きですが、アズマヒキガエルは近年個体数を減らしており、なんとか生き延びてほしいと思っています。



アズマヒキガエルの卵 (2026年3月1日)



オタマジャクシ (2026年3月18日)



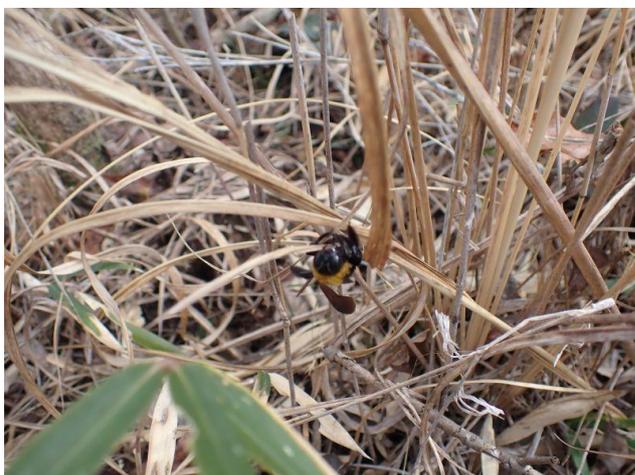
魚を食べるカワセミ (2026年2月13日)



魚を狙うアオサギ (2026年3月14日)

3、クマバチの越冬

J地点の南東でヌマガヤの除草をしているときに、根元で越冬しているクマバチを見つけました。この部分の除草をやめてクマバチを残しましたが、うまく越冬できるでしょうか。



ヌマガヤの根元で越冬するクマバチ (2026年2月24日)